

SGHの取組について 未来を担う済々多士

SGH指定を受けて、済々黽の環境SI（School Identityを考える）

環境省 九州環境パートナーシップオフィス

澤 克彦

EPO九州について

- ▶ 環境省が、協働やESD（環境教育）の普及促進に向けて全国8カ所に設置した、環境教育等促進法にもとづく情報発信拠点。
- ▶ 持続可能な地域づくりに向けた、環境NPOや地域の様々な主体の活動づくりを中間支援。
- ▶ スタッフはNPO職員として常勤



SGHって何？

- ▶ スーパー 超越した
- ▶ グローバル 地域横断的な・地球的規模での
- ▶ ハイスクール 高校

ボトムアップ型の教育支援から、トップランナー育成型の取組へ。

SGP (Person) , SGC (Class) ではない。

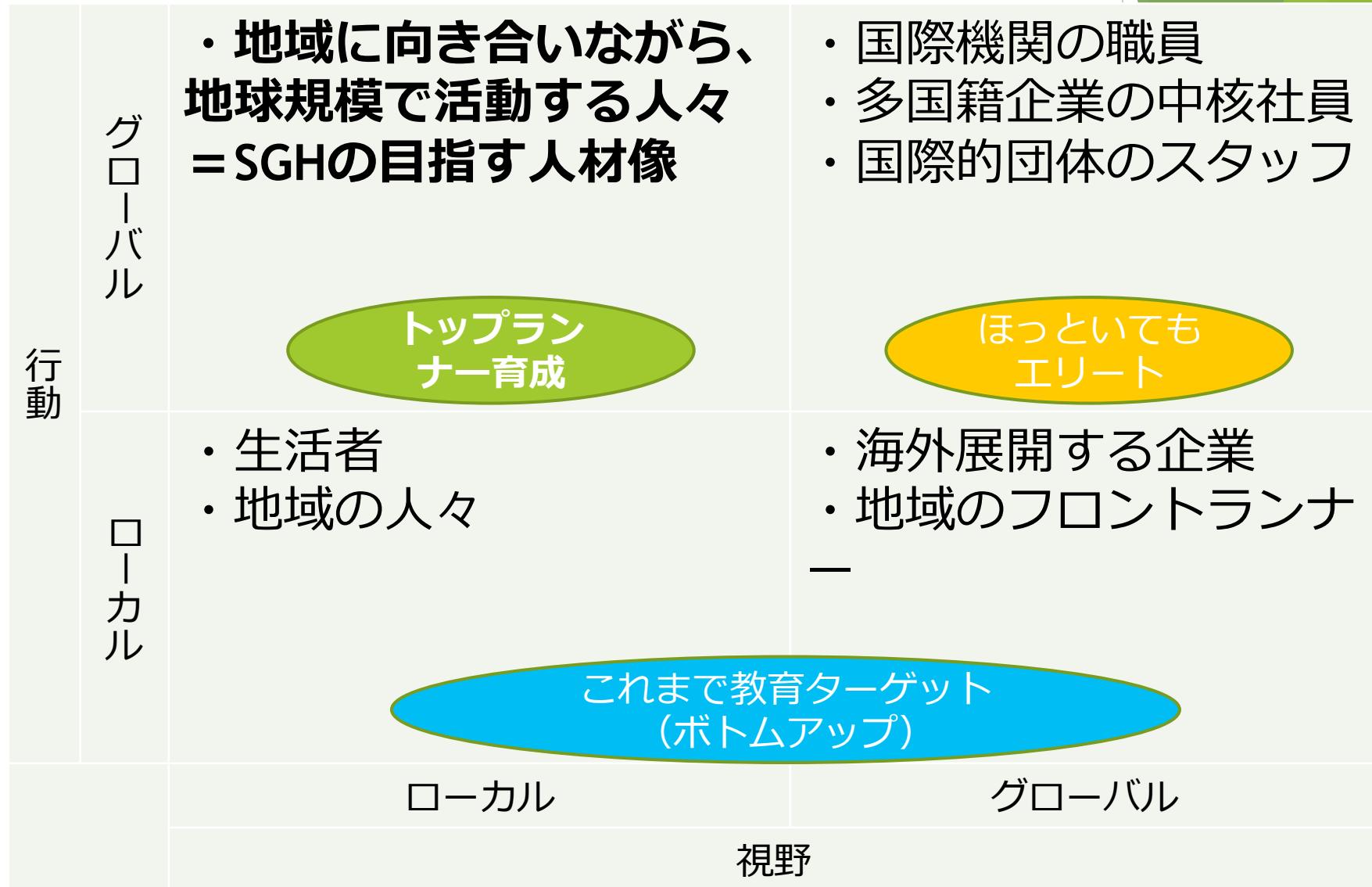
- 高校単位、地域に開かれた取組として期待されている。

どんな人を育てるの？

- ▶ 国際感覚（現代社会への関心と地球的視野）= ほつともグローバルに動きまわる！
- ▶ 課題設定・解決力（問題意識と論理的思考）= 意欲や関心を刺激するテーマを、自ら発掘することからスタートできる！
- ▶ コミュニケーション能力（外国語活用力と教養）= どんどんつながるネットワーク力！
- ▶ 批判的思考と創造力（イノベーションへの期待）= 意欲と機会の掛け算！

すでに多くの卒業生が、
こうした資質とともに世界で活躍している。

人材像を想定してみよう！



環境課題って何？

- ▶ 環境 3 社会 = 循環型社会、自然共生社会、低炭素社会
- ▶ 環境課題は単品ではなく、複合として表出する = もはや課題のビュッフェ状態。
- ▶ 気候変動・汚染汚濁（水・大気）・生物多様性保全（森林・希少種・生態系）、資源利用・廃棄物処理。
- ▶ いずれの課題も、規模・影響が多様化している。誰かが解決してくれるものではない。自らの行動をとおして変えていくマインドセットが必要。
- ▶ 足元の環境課題に向き合う態度を基盤に、世界各地の取組や活動をとらえていく。

個別対応から、トータルでの視野での取組み

- 地域づくりの視点（経済・社会・公正）からの課題設定が必要。

Environmentalから Sustainabilityへ

- ▶ 水俣病に象徴される、産業社会のひずみとしての公害を端緒に日本・世界の環境問題はスタートしている。
- ▶ 公害対策が一定の役割を果たした後、環境保全へとスケールアップする。マイナスを0に戻す作業から、0をプラスにするフェーズ。
- ▶ さらに、生活のあり方についても環境意識が高まる中で、エコ、ロハスといった考え方が浸透する。
- ▶ 現在は総じて「持続可能性」としてとらえられている。

単語・意味→概念・構想へと展開

- 言葉はもとより、考え方や課題設定は日々⁷進化している。

持続可能な社会とは何か

- ▶ 現代の世代が、将来の世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、要求を満たしていこうとする理念
- ▶ 現代は、未来からの借り物である。

英語でとらえる社会課題

- ▶ 水俣病 : Minamata disease
- ▶ 生物多様性 : Bio Diversity
- ▶ 社会的責任 : Social Responsibility
- ▶ 賢明な利用 : Wise Use
- ▶ 持続発展教育 : Education for Sustainable Development

熊本の環境地域づくりを 英語で考える

- ▶ 水俣のもやいなおし、水俣病からの地域再生
- ▶ 球磨川の再生、荒瀬ダムの撤去
- ▶ 阿蘇の草原保全とジオパーク
- ▶ 荒尾干潟のラムサール登録と地域活用
- ▶ 有明海再生に向けたの海洋資源活用
- ▶ 下益城エリアのフットパス



一緒にかんがえてみよう！ SGHとして取組めること ワークショップ ワールドカフェ

- ▶ 4名程度のグループになります。
- ▶ コーディネーターを決めます（テーブルの主）
- ▶ 済々齧がSGHとして取組めること、取組みたいことを自由に意見交換します。（10分程度）
- ▶ 次に、コーディネーターをテーブルに残してグループをシャッフルします。
- ▶ 2分程度で、直前のグループでの意見をコーディネーターが伝えます。
- ▶ 新しいグループで、私にできること、取組みたいことを中心に意見交換します。
- ▶ いくつかのグループでの内容を共有します。

EPO九州としてできること SGHに期待すること

- ▶ 熊本県内の環境団体の紹介（プロデューサーに学ぶ）
- ▶ 水俣をはじめとする地域学習プログラムの企画支援
- ▶ 海外での研修企画についての提案（09年、10年に熊本大学薬学部の研修企画を提案）
- ▶ SGHは、地域のオープンプラットフォームである
- ▶ これからの教育・人材育成のあり方を、大人・生徒の垣根を超えて一緒に考え、実践していく